

2月議会本会議一般質問

ヒバクシャ国際署名をまたも拒否 知事は答弁せず

3月5日の本会議一般質問でわしの議員は、昨年、国際NGO ICANがノーベル平和賞を受賞したことを受けて改めて、ヒバクシャ国際署名への賛同を追及しました。

わしの議員は、中日新聞2月14日付に掲載された「核兵器禁止条約採択～なぜ日本は署名しないのか～」という、知多市八幡中学2年の女子生徒の作品とコメントが掲載された新聞記事を、パネルにして質問しました。この記事は、「新聞切り抜き作品コンクール」に応募された9216作品から中日大賞に選ばれた8作品の一つです。生徒は「世界から核兵器をなくすには、どうすればいいのか。ずっと考えていきたい」と語っています。

1月8日現在、ヒバクシャ国際署名に署名した自治体首長の数は1015(うち20の知事が含まれること)、愛知県内では23の市町村長が署名していることをわしの議員は示した上で、「今こそ愛知から政府に対し、核兵器禁止条約の参加を迫り、核兵器廃絶の世論を盛り上げるべきです。大村知事もぜひヒバクシャ国際署名に賛同して署名をしていただきたい」と大村知事に迫りました。

共産党県議団としてヒバクシャ国際署名について



壇上でパネルを示し質問するわしの恵子議員

本会議で取り上げるのは3回目ですが大村知事は答弁に立たず、代わって答弁した県民生活部長は、「核兵器の廃絶は、人類の誰もが願う共通の切なる思い」であると述べる一方、国際情勢や政府の考え方を理由にして「『ヒバクシャ国際署名』や日本政府への条約批准の働きかけについては、慎重な対応が必要」と、被爆者や多くの国民の願いを裏切る答弁を行いました。前回、前々回と同じ内容の答弁で、ヒバクシャ国際署名に後ろ向きな態度に終始しました。

児童相談センターと一時保護所の改善を

わしの議員は、西三河の一時保護所で保護していた少年が居室内で自殺した一時保護所の問題と児童相談センターの機能の充実強化について質問しました。

亡くなった少年が暮らしていた一時保護所は定員48名のマンモス保護所で、少年のいた男子棟は定員14人に対して11人が入所していました。

わしの議員は、「児童相談センターの役割が十分に果たせていないのではないか、問題を抱えた一人ひとりの子どもたちに寄り添ったきめ細やかな対応ができるのか心配するがどうか」と質問しました。健康福祉部長は、一時保護所に保護された児童については、「児童福祉司や児童心理司が定期に訪問し、面接

やカウンセリングを行って児童のケアを行っている」と答えました。

わしの議員は、「児童虐待の相談件数がここ数年増え続けており、子どもたちに寄り添い、きめ細やかな対応をするためにも、狭くなっている3ヵ所の児童相談センターについて、建て替えを行うとともに一時保護所も併設して改善していただきたい。児童相談センターと一時保護所のあり方についても見直してほしい」と提案・要望しました。県は、「『県公共施設等総合管理計画』に基づき、長寿命化対策を進め、その中で執務スペースの改善を図っていく」と述べるとどまり、抜本的な改善を図ろうという立場には程遠いものでした。